

Clinical and pathogenic features of SCCmec type II and IV methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* in Japan

加勢田, 富士子

<https://hdl.handle.net/2324/1806894>

出版情報：九州大学, 2016, 博士（医学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：やむを得ない事由により本文ファイル非公開（2）



氏 名：加勢田 富士子

論 文 名：Clinical and pathogenic features of SCC*mec* type II and IV methicillin-resistant
Staphylococcus aureus in Japan

(本邦における SCC*mec* II 型と SCC*mec* IV 型メチシリン耐性黄色ブドウ球菌の臨床及び病原性の特徴)

区 分：甲

論 文 内 容 の 要 旨

メチシリン耐性遺伝子領域 (Staphylococcal cassette chromosome *mec*: SCC*mec*) IV 型を保有するメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (methicillin-resistant *Staphylococcus aureus*: MRSA) は市中感染型 MRSA として知られているが、近年では病院内にも広まっており、欧米ではその特徴はよく報告されている。しかし日本の SCC*mec* IV 型 MRSA は欧米で流行している株とは異なっており、その特徴を解析した報告は少ない。今回、日本における SCC*mec* II 型と IV 型 MRSA の特徴を比較検討するため、単施設後ろ向き観察研究を行った。対象は下気道検体もしくは皮膚軟部組織検体より検出された SCC*mec* II 型 MRSA 55 株、IV 型 MRSA 101 株である。SCC*mec* IV 型が検出された患者は II 型と比較し有意に若年であった ($P < 0.001$)。MRSA 肺炎の原因菌率は、SCC*mec* IV 型が II 型と比較し有意に低かった (7.8% vs 29.0%、 $P = 0.026$)。一方、MRSA 皮膚軟部組織感染症原因菌率は、両型で有意差を認めなかった (66.0% vs 61.9%、 $P = 0.788$)。MRSA 病原性遺伝子 (*tst*、*sea*、*seb*、*sem*、*seo*) の保有パターンは両型で大きく異なっており ($P < 0.001$)、SCC*mec* II 型と IV 型 MRSA は異なるクローナルコンプレックスに分類されることが示唆された。MRSA 肺炎を発症した SCC*mec* II 型 MRSA は全て、*seb* と *egc* (*sem*、*seo*) を保有していたが、*tst* は保有しておらず、Multi Locus Sequence Typing を行ったところ、sequence type (ST) 764 型に属していた。本研究は日本で初めて SCC*mec* II 型と IV 型 MRSA の臨床的特徴を比較した報告であり、MRSA 感染症の診断、治療に役立つと考えられる。